



朝日新聞東京本社
〒104-8011
東京都中央区築地5-3-2
電話 03-3545-0131 www.asahi.com

2026年(令和8年)
8月23日
日曜日
処暑

天気	6時	9時	12時	15時	18時	21時	最高気温	最低気温
東京	晴	晴	晴	晴	晴	晴	32	24
横浜	晴	晴	晴	晴	晴	晴	32	24
千葉	晴	晴	晴	晴	晴	晴	31	25
さいたま	晴	晴	晴	晴	晴	晴	32	24
水戸	晴	晴	晴	晴	晴	晴	30	23
宇都宮	晴	晴	晴	晴	晴	晴	30	23
前橋	晴	晴	晴	晴	晴	晴	30	23
甲府	晴	晴	晴	晴	晴	晴	35	24
静岡	晴	晴	晴	晴	晴	晴	32	25
札幌	晴	晴	晴	晴	晴	晴	31	21
仙台	晴	晴	晴	晴	晴	晴	30	23
名古屋	晴	晴	晴	晴	晴	晴	37	27
大阪	晴	晴	晴	晴	晴	晴	37	28
福岡	晴	晴	晴	晴	晴	晴	35	27

国政策でホスピス型急増「過剰な訪問看護で請求横行」

「格安入居」裏に診療報酬

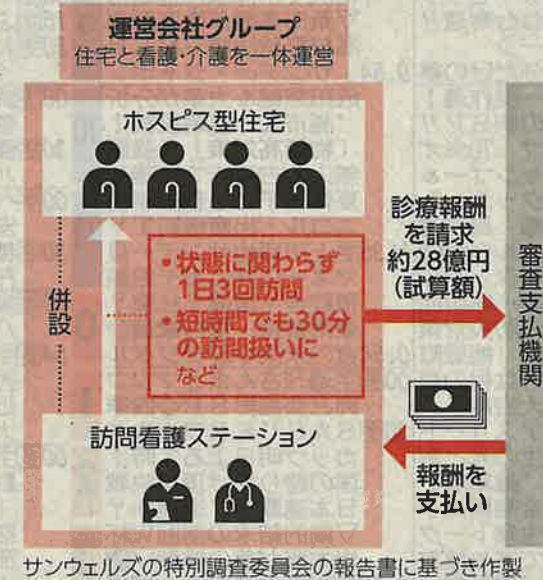
居室と訪問看護などの事業所が併設する「ホスピス型住宅」の利用料を3倍に値上げした運営会社(東京都)の社長は、これまでが格安だったと語った。どんなことが起きていたのか。

▼1面参照

この運営会社は、首都圏や大阪、愛知など50カ所以上で同様の施設を展開している。社長によると、3倍に値上げした施設は2019年の開設当時、利用料は月30万円。その後、値下げを繰り返したと語った。「業界は異常なマーケットだった」「赤字を他の施設の収益で埋めていた」とも主張した。

ホスピス型住宅は各地で増えている。高齢者住宅業界の調査などによると「タムラプランニング&オペレーティング」(東京都)によると、20年は全国で227施設だったが、26年4月には4倍の889施設になった。急増の背景には、在宅医療への移行を進める国

「ホスピス型住宅」をめぐる指摘された問題



■診療報酬の改定(6月)

複数患者がいる同じ建物への訪問看護の場合

- ・利用者数や日数によって報酬額を細分化
- ・短時間訪問は算定を厳しく
- ・1日の看護を包括的に評価(新設)

を包括的に評価する仕組みも設けた。3倍に値上げしたホームの運営会社は、不適切な報酬請求は「していない」と話した。ただ、6月の制度見直しは、減収が見込まれるため値上げの一因だと説明。一部を除く他施設でも、大半の入居者の同意を得て月平均約6万円の値上げをしたという。

他の事業者を取材すると、同様にこの夏、値上げした大手事業者もあった。厚労省には6月ごろから、複数会社のホームの値上げに関する相談が各地から寄せられているという。

高野教授は「格安な料金で入居者を集めた以上、急激な値上げは見越さないと」と釘を刺す。一方、「業界健全化の過程」と話す田村社長は、国が在宅医療への移行を進める中でホスピス型住宅の必要性は高いとして「家賃補助導入などを国が検討するべきだ」と話した。

(華野優気、久保田一造)

「低価格競争」制度見直し後には値上げ

サンウェルズの事業について、厚生労働省の担当者「個別事業案に関する」と話した。その裏で、昨年、全国展開する大手事業者のサンウェルズ(金沢市)が、不適切な形で診療報酬を請求していたと指摘される事態が起きた。患者の状態に関係なく1日3回の訪問看護を必須としたり、数分の看護を30分だったことにしたりしていた。弁護士らが調査して公表。請求額を約28億円と試算した。サンウェルズは謝罪のコメントを出し、再発防止策も示した。

高野教授は、近年、過剰な訪問看護で診療報酬を請求する手法が横行していた、と指摘する。この方法だと、入居者が多いほど利益が増す。そのため、「業界が低価格競争になった」とタムラ社の田村明孝社長は言う。また、高野教授は「月20万円程度で『みどり』までお願いできるなら、退院後に行き場がない人は、わらにもすがる思いで集まる」と患者側の事情も語った。

ホスピス型住宅 月10万円→30万円



ホームから入居者家族に届いた料金改定の「通知」。改定後の料金がペンで囲われている。30日分の食費を含めると36万4800円になる＝13日、東京都内、華野優気撮影

突然の改定 垣間見えた「悪弊」

東京都内のケアマネジャーの男性は5月、その「通知」を見て驚いた。担当する高齢者が暮らす住宅型有料老人ホームが値上げする。月10万円の利用料が、8月から30万円になるという。

ホームは末期がんや難病患者ら向け。18〜50平方メートルの個室が約40ある。訪問の介護と看護の事業所を併設し、看護師らが24時間体制で対応する。「ホスピス型住宅」とも呼ばれる施設だ。

利用料の内訳は家賃と管理費。部屋の広さなどで違いますが、月10万円の部屋が、家賃18万円と管理費12万円になる。通知では、0円だった食費も1日あたり2160円と

されていた。ケアマネジャーの男性は「移動が困難な人もいる。短い猶予で3倍の値上げはひどい」と憤った。

ホームは東京23区内にある。最寄り駅から徒歩10分余りという好立地。食費を含めて月10万円という従来の条件は、格安のようにみえる。

ホスピス型住宅は近年、終末期患者らの退院後の「受け皿」として全国で急増した。厚生労働省によると、6月ごろから、同様の施設の値上げをめぐる、各地から相談があるという。

3倍の値上げを決めたホームの運営会社社長が取材に応じた。値上げは「開設時の料金に戻した」のだといい、「一部の他社の影響で、極端な価格競争に巻き込まれていた」と主張した。

急激な値上げというより、下げざるを得なかった利用料を相応な水準に戻した、という説明。取材すると、業界が指摘されてきた「悪弊」の影響がのぞいた。

(華野優気、久保田一造)

▼31面「格安」の裏側